

琉球大学学術リポジトリ

春植草花を作りました

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 友寄, 長重, Tomoyose, Choju メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20850

春植草花を作きましょう

町や村を花いっぱいにして、環境を美化し、同時に人々の心も和やかにしようという運動がくり広げられています。花卉と云っても色々な種類がありますが、まず草花について述べましょう。

草花には栽培土地における生育期間により、春播一年草、秋播一年草、宿根草があります。

春播一年草

春播一年草は播種した年内に開花して枯死する種類で不耐冬性一年草、または単に一年草とも呼ばれます。

秋播一年草

秋播一年草は播種の年には多く開花せず、翌年に開花して枯死する種類で、越年草、二年草、耐寒性一年草とも呼ばれます。

宿根草

宿根草は一名多年草とも呼ばれ、年々地下の茎または根から新芽を生じて生育する種類を総称します。これから春のうららかな候になりますと、多くの一年草や多年草が芽生えるのに適当な時期になってまいります。では主な春植草花について述べましょう。

えぞぎく（アスター）は1、2月にかけて播種され5、6月にかけて開花します。品種には白玉、アカネ、緋乙女などがあり、鉢植、切花、花壇用に作られます。つくばねあさがお（ペチュニア）はなす科の植物で9、10月にかけても播種または挿木により繁殖されますが、また1、2月にかけても植えられます。播種の場合には、種子が小さいので、鉢または木箱に播き、底から吸水させて育苗します。これも花壇、切花、鉢植用に作られ、4、5月にかけて開花します。

次に3、4月にかけて植えられる草花をあげますと、先づ、百日草（ジニア）は大輪、小輪咲、花の色もさまざまあって切花、花壇用に作られ、7、8月にかけて開花します。せんきちこう（ゴンフレナ）は6、7月にかけて紫や桃色の団子状の花を咲かせ、台風に強く、栽培も容易で、花壇に植えられ、盆用の切花とし

ても用いられます。まんじゅぎく（マリーゴールド）は6～8月にかけて黄や橙の花を咲かせます。種子、挿木によっても繁殖され、切花、花壇用に作られます。米国種で無臭で大輪の花が咲くのが喜ばれます。コスモスはよくやせ地にも生育し、切花、花壇用に作られ、7、8月にかけて種々の色の花を咲かせます。ひまわり（サンフラワー）は花壇に直播され、7、8月にかけて黄色い大輪の花を咲かせます。ほうせんか（ていんさぐ）（バルサム）の花は改良されて大型のものがあり、花壇、鉢に直播され、7、8月にかけて開花します。次に春植多年草について述べます。

春植多年草

ガーベラは秋から春にかけて株分けし、普通2、3月に植付けられます。植付の時は葉と根を半分位に切って深植しないようにします。週年赤、白、その他の色の花を咲かせ、切花、花壇用に作られます。はなめうが（ジンジャー）は地下茎を株分けし、2、3月に湿気の多い場所に植付けられ、6～8月にかけて白色の花を咲かせます。香気があって悦ばれます。

次に3、4月に植付けられる多年草をあげます。ダーリアは種子、球根によって繁殖され、切花、花壇、鉢植用に作られ、4、5月と秋に開花します。株分けの場合には一つの塊根に必ず頂部の芽をつけて分けます。10、12月にかけて挿木による繁殖もできます。グラジオラスは春咲と夏咲があり、夏咲は3、4月、春咲は9、10月に植付けられます。球根により繁殖されるが、改良されたよい品種を年々輸入して栽培するのもよく、切花用として重宝がられます。カンナは花壇用によく、根茎に2、3芽つけて分割して植えると、5月から11月にかけて赤や黄の花が咲きます。煤煙に強いので都市の空地に群落として植込むのはよい材料です。てんじくあふい（ゼラニウム）は殆ど週年挿木により繁殖できるが、3、4月に苗が作り易い。挿木には株の先端を6～9センチ毎に切り、平たい木箱

に川砂をつめて、それに挿せばよい。雨にぬらさないように上からビニール等でおおい、直射日光に当てないようにすだれの下におけば、2、3週間で発根します。切花、鉢植、庭園用に植付けられます。カラジュームは観葉植物で、琉根はかなり高価なものです。自然分球と親芋の大きなものを人工分球することにより繁殖されます。専ら鉢植にし、日光が強い日には日焼を起すから注意し、よく灌水します。

4、5月にかけて播種される一年草に、けいとう（セロシヤ）とアサガオがあります。アサガオは鉢植が主であるが、垣根作りもよく、直播も行なわれ、育苗して、子葉が開ききって、本葉がのぞきかけた頃定植することも行なわれています。けいとうは切花、花壇用に作られ、直播されます。種皮は固いので播く前日一晩水に浸しておくとうよく発芽します。丈が高すぎると風で倒れる恐れがありますので、支柱立てする必要もあります。

菊はだれでも知っている通り、秋に美花を開く宿根草であります。所が、現在では秋に限らず、週年市場で販売されています。菊には秋菊のほか寒菊があり夏菊があるからです。秋菊は短日性植物で、秋になって一日の日長時間が短くなった時に花芽分化し開花しますが、夏菊は日長に関係なく温度さえあれば開花するので、冬期も保温され、秋菊も夏は電燈照明して長日にしておき、冬になって照明を中止し、短日状態にして咲かせることができます。菊の繁殖は種子、株分、挿木により行なわれますが、普通庭園に秋菊を作る場合には株分け、挿木をします。挿木の時期は秋の開花期までに、どれ位の大きさの植物体に育てかたによって決まり、一般に4月から7月の間に行なわれます。株分けは秋、冬花が終ってから株の根云近くにできているからこれを1本づつ分けて床又は鉢に植替えます。株分けする新芽は根元からなるべく遠く離れたのがよく新根を出しており、活着し易いものです。株分けして生長したものから選んで挿木法には一番頂部を7cm程の長さに切って挿す天挿しとその下の茎に一葉一芽をつけて挿があります。（友 寄 長 重）